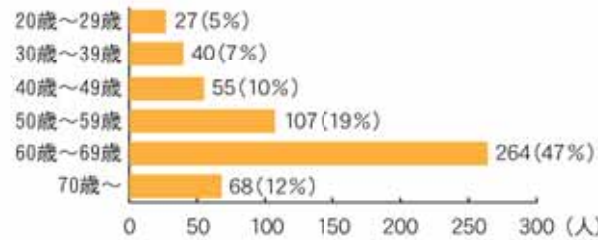


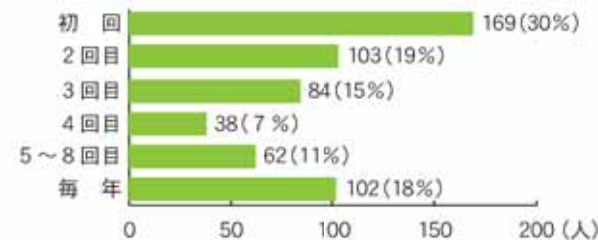
◆みんなでつくろう市民トーク アンケート結果

今後の取り組みに活用するため、会場でアンケート調査を実施しました。

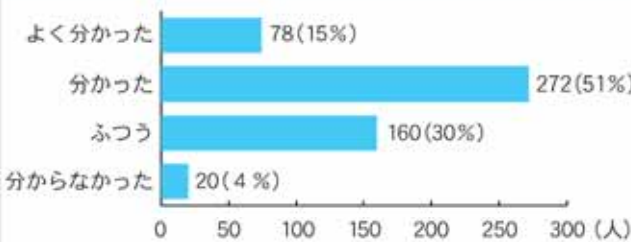
あなたの年齢は？



何回目の参加ですか？



市の取り組み、課題が分かりましたか？



◆市内10の小中学校区を単位とした「地区自治推進協議会」ごとに会場を設けました。会場では、地区が希望した市政内容、ワークショップを通じた質問や意見などに回答しました。

各会場データ(地区が希望した市政内容・質問や意見、参加人数)

地区	実施日	地区が希望した市政内容・質問や意見(主なもの)	参加人数
片浜	6月24日(日)	▶地域づくりに学校区が関わる役割▶片浜海岸地区の地震津波対策と計画	52人
細江	26日(日)	▶市所有の遊休地の利活用計画▶二の谷周辺土地	92人
地頭方	7月1日(日)	▶避難地・避難路▶小学校の高台移転▶少子化対策▶若者のUターン促進▶農地転用の緩和▶防災ラジオ	92人
勝間田	4日(日)	▶農産地域の今後	90人
相良	8日(日)	▶津波被害想定区域からの転出者抑制策▶榎原病院の医師不足対応▶バスポート申請▶相良保育園避難路改修▶福岡区民館を区の防災センターに▶窓口業務の民間委託▶天の川大江線の計画・整備▶海岸の流木処理と防潮堤▶海岸線の砂浜減少▶土砂災害▶人口減少の歯止め▶津波防災まちづくり推進事業	127人
坂部	11日(日)	▶お茶産業の振興▶子どもの教育環境▶バス交通▶道路の整備計画▶人口減少対策▶浜岡原発の永久停止	57人
川崎	15日(日)	▶静波海岸陸間のスロープ化▶勝間田川の浚渫▶静波・勝間田線の道路改修	120人
菅山	18日(日)	▶原子力発電所の事故に伴う避難▶白地農地の転用制限	71人
牧之原	28日(日)	▶市総合計画▶絆づくり事業	69人
萩間	29日(日)	▶行政から見た萩間地区の現状と課題および展望	68人
計			838人

各会場の会議録は、市ホームページや両庁舎の情報公開コーナーで閲覧できます。

オープンを受け入れ体制で、地域の安全安心な暮らしを支えています。

榎原総合病院は、今年で指定管理者制度に移行して5年になります。今後の5年間に向けて、さらなる診療体制の充実を目指し、指定管理者との協議を進めていきたいと考えています。

市内には、お茶やレタス、大根、自然薯、苺などの農産物、シラスや鯛などの水産物など、多くの特産品があります。こうした優れた素材そのものを売ることも良いのです。

地場農産物を使った商品開発を



地域の課題をみんなで共有

みんなでつくろう 市民トークが開催されました

「みんなでつくろう 市民トーク」が、市内10会場で開催され、838人の皆さんが参加しました。トークでは、市長や市職員が、津波防災まちづくりや第2次総合計画の策定状況などについて説明するとともに、地区が希望した市政内容やワークショップを通じた質問や意見などにお答えしました。会場でいただいた質問や意見の中から主な内容をお知らせします。

問い合わせ 秘書広報課 西川 ☎0052

人口減少・少子化対策の考え方は

先日、民間の有識者でつくる「日本創成会議」は、全国の896自治体で、2040年に20〜30歳の女性人口が5割以上減り、「消滅する可能性がある」と発表しました。牧之原市は、かろうじて対象とはなりませんでしたが、ほぼ同じ程度の減少が予測されています。

人口減少・少子化対策は、市政の最重要課題となっております。あらゆる分野の施策を一体的に展開していかねばなりません。

例えば、安心して子供を産み育てられる環境を整備する、経済の活性化を通じて雇用を創出する、教育環境を充実するなど、さまざまな対策が必要であると考えられます。

現在策定中の第2次総合計画では、「宝 子ども育成プロジェクト」を重点的に取り組む施策として位置付けています。多くの施策を積み重ねた上で、子どもを産み育てやすい環境を実現したいと考えています。

また、既婚率の低下も大きな課題となっております。最近では、若年層の男女が出会う機会

榎原総合病院の医師不足対策は

榎原総合病院の医師数は、平成21年には41人でした。その後、経営難に陥り、22年の指定管理者制度移行時には25人、23年には16人まで減少してしまいました。

しかし、今年に入り1月には、心臓血管外科医2名が着任。6月には総合内科医の副院長が就任し、一般病床を50床程度拡大する検討を行っています。さらに、常勤の産婦人科医が着任するとともに、7月1日からは精神科の常勤医も勤務するなど、医師は、24人にまで充実してきています。

救急医療については、年間1万9千人から2万人の人が、榎原総合病院を利用しています。指定管理者制度移行前よりも救急患者の受け入れは増えており、年中無休、24時間

会が少なくなっているため、出会いの場づくりにも取り組んでいます。

こうした多岐にわたる施策や事業を実施することで、人口減少や少子化に歯止めをかけていきたいと考えています。